

の箇所が御記入  
が必要な箇所です

### 借受人書類(個人) 記入例

## 農用地利用集積等促進計画書

押印  
(認印可)

捨印  
Ⓜ

捨印

受

小江戸

賃借権又は 使用貸借権 の設定を行う 者(甲)	〒 361-0013	電話番号	フリガナ コウエキシヤタンホウジンサイタマケンノウリンコウシャリジョウ	同意印	生年月日
	埼玉県行田市大字真名板1975番1	(昼間連絡がつく番号) 048-558-3555	(氏名又は名称) 公益社団法人埼玉県農林公社 理事長 小畑 幹	Ⓜ	
賃借権又は 使用貸借権 の設定を受 ける者(乙)	〒 000-0000	電話番号	フリガナ コエト ジロウ	同意印	生年月日
	川越市000456-7	(昼間連絡がつく番号) 000-000-0000	小江戸 次郎	小江戸	昭和・平成 令和 40年1月10日 西暦

賃借権又は 使用貸借権 の設定に係る 地域計画(A)	地域計画の公告日等	地域計画の区域名	(乙)が目標地図に位置付けられた者である
			<input type="checkbox"/> (位置付けられていない場合は空欄)

### 1. 各筆明細

賃借権又は使用貸借権の設定を行う土地(B)					(乙)に設定する権利(C)						備考			
所 在				現況 地目	面積 (㎡)	権 利 の種類	内容 (利用目的・ 作付作物等)	始期 (年月日)	終期 (年月日)	存続期間 (年月)		借賃		借賃の 支払方法 (支払期限)
市町村	大字	字	地 番									年額 (円)	10aあたり (円)	
別紙のとおり														

#### (記載注意)

- この各筆明細は、権利の設定を受ける者ごとに別葉とする。
- (B)欄の「面積」は登記記録の地積によるものとする。なお、1筆の一部について賃借権又は使用貸借権が設定される場合には、面積に貸借する面積を記載の上、備考に「登記面積〇〇〇㎡のうち〇〇〇㎡」のように記載する。
- (C)欄の「権利の種類」は、「賃貸借」と「使用貸借」のいずれかを記載する。
- (C)欄の「内容」は、当該土地の利用目的(「水稻」「露地野菜」「施設野菜」「果樹」「花卉」等)を記載する。
- (C)欄の「存続期間」は、「〇年」または「〇年〇か月」と記載する。
- (C)欄の「借賃」は、当該土地の1年分の総額と10aあたりの単価額を記載する。10aあたりの借賃が毎年の変動する場合は、年額の欄に「支払時算出」、10aあたりの欄に農協名、品種名、等級及び数量の概算金(例:「JAほくさい 彩のかがやき一等米概算金30kg相当額」として記載する。借賃が筆ごとに固定の場合は、10aあたりの欄には「(固定借賃)」と記載する。また、使用貸借の場合、どちらの欄にも「0円」と記載する。
- (C)欄の「借賃の支払方法」は、「口座振込又は振替(12月末)」と記載する。

## 2 共通事項

この農用地利用集積等促進計画の定めるところにより設定又は移転を受ける権利は、1に定めるもののほか、次に定めるところによる。

### (1) 賃借権の設定等の条件

1に定める農地中間管理機構（以下「甲」という。）による賃貸借又は使用貸借による権利の設定（以下「賃借権の設定等」という。）は、賃借権の設定等を受ける者（以下「乙」という。）が当該賃借権の設定等を受けた土地について次のいずれかに該当するときは解除をすることを条件とする。

ア 当該農用地等を適正に利用していないと認められるとき。

イ 正当な理由なく、甲の求める農地中間管理事業の推進に関する法律第21条第1項の規定による報告をしないとき。

### (2) 面積による借賃の増減額請求

甲及び乙は、当該土地の1の各筆明細に記載された面積と実測面積との間に差異があっても、異議を述べず、また、借賃の増減を請求しない。ただし、国土調査による成果及び土地改良事業による換地等に伴う面積の増減に関してはこの限りでない。

### (3) 借賃の支払猶予

甲は、乙が災害その他やむを得ない事由のため、1において定められた借賃の支払期限までに借賃の支払をすることができない場合には、相当と認められる期日までにその支払を猶予する。

### (4) 借賃の改訂

この農用地利用集積等促進計画を定めた後、借賃の改訂にあたっては、農地法第52条の農業委員会が提供する借賃の動向や地域関係者による協議結果等を勘案して、甲、乙が協議して定める額に改訂することができる。

### (5) 借賃の減額

ア 農地中間管理権の目的物が農地である場合で、乙から甲に対して農地法（昭和27年法律第229号）第20条又は民法609条の規定に基づく借賃の減額請求があり、甲が当該借賃を減額する場合には、甲は土地所有者に対して、借賃の減額を請求することができる。減額されるべき額は、甲及び土地所有者が協議して定める。

イ 目的物の一部が滅失その他の事由により使用及び収益をすることができなくなった場合で、甲又は乙の責めに帰することができない事由による場合は、賃料はその使用及び収益をすることができなくなった部分の割合に応じて減額され、目的物が使用及び収益をすることが可能となったときは減額前の賃料に戻る。なお、賃料の減額の時期及び減額前の賃料に戻る時期並びに減額の割合については、作物の作付・収穫の状況を踏まえて甲及び土地所有者が協議して定める。

### (6) 転貸又は譲渡

乙は、本計画により権利の設定もしくは移転を受けた土地について転貸し、又は設定を受けた権利を譲渡してはならない。

### (7) 遅延損害金

ア 乙は、1の各筆明細に定める期日までに借賃を支払わない場合は、甲に対し、支払期日の翌日から支払日までの間を計算期間とする遅延損害金を支払わなければならない。

イ 遅延損害金は、借賃の額に対し、年5パーセントの割合で計算して得た額とする。

### (8) 修繕及び改良

ア 甲は、乙の責に帰すべき事由によらないで生じた当該土地の損耗について、自らの費用と責任において当該土地を修繕する。ただし、緊急を要するときその他甲において修繕することができない場合で甲の同意を得たときは、乙が修繕することができる。この場合において、乙が修繕の費用を支出したときは、甲に対して、その費用の償還を請求することができる。

イ 乙は、農地法第4条第1項または第5条第1項の規定に基づく許可を要する改良や農業委員会への届出を要する改良を行う場合には、あらかじめ甲を経由して土地所有者の同意を得るものとする。

ウ 修繕費又は改良費の負担及び償還は、別表1に定めたものを除き、民法、土地改良法等の法令に従う。

### (9) 付属物の設置等

ア 乙が、当該土地に果樹等の永年性作物、ハウス等の農業用施設（以下「付属物」という。）の設置を行う場合には、県または市町村及び農業委員会に事前に相談を行い、甲の同意を得る。

イ 甲は、アの同意を行う場合には、事前に乙が付属物の設置を行うことについて土地所有者の同意を得る。また、乙が甲及び土地所有者の同意を得て付属物を設置した場合において、賃貸借又は使用貸借が終了したときは、乙は土地所有者に対して直接当該付属物を収去する義務を負い、甲は土地所有者に対して収去の義務を負わない。

ウ ア及びイの規定にかかわらず、当該土地から分離することのできない付属物、分離するのに過分の費用を要する付属物及び土地所有者が付属物を収去しないことに同意しているときに限り、甲及び乙は収去の義務を負わない。この場合、乙が支出した費用については、土地所有者が費用償還に同意している場合に限り、乙は土地所有者に対して償還の請求をすることができる。なおその額については、乙及び土地所有者が協議して定める。

### (10) 租税公課の負担

ア 当該土地に対する固定資産税その他の租税は、土地所有者が負担する。

イ 当該土地に係る土地改良区の賦課金等は、別表2に定めたものを除き土地所有者の負担とする。

ウ その他当該土地の通常の維持管理に要する経費は、乙の負担とする。

### (11) 賃借権又は使用貸借権の終了

天災地変その他、甲及び乙並びに土地所有者の責に帰すべからざる理由により当該土地の全部又は一部が滅失し、その目的を達することができなくなったときは、この農用地利用集積等促進計画の定めるところにより設定又は移転された賃借権又は使用貸借権は終了する。

乙は、使用貸借により権利を取得した1の各筆明細に記載された貸借期間において、甲の合意なしに使用貸借の解除をすることができなるとともに、乙の死亡によって終了しない。

### (12) 目的物の返還

賃借権又は使用貸借権の存続期間が満了したときは、乙は、その満了の日から30日以内に、甲に対して、当該土地を原状に回復して返還（付属物の取扱については(9)による。）する。ただし、災害その他の

水利費や土地改良区の賦課金がある場合で、借受人が負担する場合は、次ページの別表2にその旨記入が必要になります。この場合は次ページを参考に記入してください。

不可抗力、修繕若しくは改良行為又は当該土地の通常の利用によって生ずる形質の変更については、乙は、原状回復の義務を負わない。

(13) 賃借権又は使用貸借権に関する事項の変更の禁止

甲及び乙は、この農用地利用集積等促進計画に定めるところにより設定又は移転される権利に関する事項は変更しないものとする。ただし、甲、乙、及び埼玉県または市町村が協議の上、真にやむを得ないと認められる場合は、この限りでない。

(14) 権利取得者の責務

ア 乙は、この農用地利用集積等促進計画の定めるところに従い、目的物を効率的かつ適正に利用しなければならない。

イ 乙は、農地中間管理事業の推進に関する法律（平成 25 年法律第 101 号）第 21 条第 1 項の規定により、甲から求められた場合、賃借権の設定等を受けた農用地等の利用の状況について、報告しなければならない。

ウ 乙は、賃借権の設定等を受けた農用地等に、永年性作物の植栽及び農業用施設を設置しようとする場合、あらかじめ甲の同意を得るものとする。

(15) その他

この農用地利用集積等促進計画に定めのない事項及び農用地利用集積等促進計画に関し疑義が生じたときは、甲、乙及び埼玉県または市町村が協議して定める。

別表 1 修繕費及び改良費の負担に係る特約事項

修繕又は改良の工事名	甲及び乙並びに土地所有者の費用に関する支払区分の内容	甲及び乙の支払額について土地所有者の償還すべき額及び方法	備考

別表 2 土地改良区の賦課金等に係る特約事項

賦課金等の種類	負担区分の内容	備考
<b>〇〇水利組合水利費</b>	<b>乙が負担する</b>	

水利費や土地改良区の賦課金がある場合で、借受人が負担する場合は、左記を参考に御記入ください。（「乙」は借受人のことです）  
水利費等がない場合や貸付人が負担する場合、御記入は不要です。

(添付書類)

- 1 土地の登記事項証明書（全部事項証明書に限る(写し可)。）
- 2 賃借権又は使用貸借による権利の設定又は移転（（以下「賃借権の設定等」という。）を受ける者のうちに法人（地方公共団体及び独立行政法人を除く。）が含まれる場合には、その定款又は寄附行為の写し
- 3 賃借権の設定等を受ける者が農地所有適格法人（農事組合法人又は株式会社であるものに限る。）である場合には、その組合員名簿又は株主名簿の写し
- 4 賃借権の設定等を受ける者のうちに農林漁業法人等に対する投資の円滑化に関する特別措置法（平成 14 年法律第 52 号）（以下「投資円滑化法」という。）第 5 条に規定する承認会社（以下「承認会社」という。）を構成員とする農地所有適格法人が含まれる場合には、その構成員が承認会社であることを証する書面及びその構成員の株主名簿の写し
- 5 賃借権の設定等を受ける者のうち農地法施行令第 2 条第 2 項第 3 号に規定する法人が含まれる場合には、その法人が農地法施行規則（昭和 27 年農林省令第 79 号）第 1 6 条第 2 項の要件を満たしていることを証する書面
- 6 誓約書
- 7 その他参考となるべき書類

3. 賃借権又は使用貸借権の設定を受ける者(乙)の農業経営の状況等(法人以外)

賃借権又は使用貸借権の設定を受ける土地の面積(A)	氏名			小江戸 次郎			農業従事日数	250 日		家畜の飼養状況(E)		農機具の所有状況(F)							
	現に耕作又は養畜の事業に供している農用地の面積(B)			主たる経営作目(C)	世帯員(構成員)の農業従事者及び雇用労働力の状況(D)				乳牛	頭	耕耘機	1	台						
	農地	農地	自作地	3,000	㎡	水稲	3	人	農業専従者 (年150日以上従事)		肥育牛	頭	トラクター	2	台				
7,000	㎡	借入地	4,000	㎡	ホウレンソウ	78			延人日	農業補助者	主として農業に従事する者	2	人	(	1	人)	豚	頭	もみすり機
採草放牧地	㎡	合計	7,000	㎡	サトイモ		従として農業に従事する者	1			人	(	0	人)	鶏	羽	乾燥機		台
その他	㎡	採草放牧地		㎡													田植機	1	台
	㎡			㎡										コンバイン	1	台			
	㎡			㎡										トラック	1	台			
	㎡			㎡										動力噴霧器	1	台			
権利設定等を受ける者が権利設定等を受けた後に行う耕作又は養畜の事業が、権利設定等を受ける農用地等の周辺の農用地の農業上の利用に及ぼすことが見込まれる影響(G)														なし					

雇用している方がいる場合は、年間の労働日数の合計を記入してください。  
日数は、8時間を1日として計算してください。

例：パートさんを2人雇っており、1人の方は1日8時間で週5日、もう1人の方は1日4時間で週3日、繁忙期の3か月間雇用している場合  
→ 5日 × 4週間 × 3か月 × 1人  
+ 4時間 / 8時間 × 3日 × 4週間 × 3か月 × 1人 = 78延人日

「農業専従者」とは自営農業従事日数が年間150日以上の方の事です。

「農業補助者」とは自営農業従事日数が年間60~149日の方の事です。

「主として農業に従事する者」とは、自営農業従事日数の合計が農業以外の仕事に従事した日数を上回る(同数を含む)方の事です。

「従として農業に従事する者」とは、自営農業従事日数の合計が農業以外の仕事に従事した日数を下回る方の事です。

賃借権又は使用貸借権の設定を行う土地(B)						(乙)に設定する権利(C)						備考			
所在				現況地目	面積 (㎡)	権利の種類	内容 (利用目的・作付作物等)	始期 (年月日)	終期 (年月日)	存続期間 (年月)	借賃		借賃の 支払方法 (支払期限)		
市町村	大字	字	地番								年額 (円)			10aあたり (円)	
1	川越市	●●	●●	123	田	1,000.00	使用貸借	水稻	R7.5.1	R17.10.31	10年6か月	0	0	-	
2	川越市	△△	△△	456-1	畑	980.00	賃貸借	露地野菜	R7.5.1	R13.6.14	6年2か月	① 5,000	5,102	口座振込又は振替(12月末)	
3	川越市	■■■	■■■	789-1	畑	1,112.00	賃貸借	露地野菜	R7.5.1	R13.10.31	6年6か月	4,300	固定借賃	口座振込又は振替(12月末)	
4	川越市	■■■	■■■	790-1	畑	512.00	賃貸借	露地野菜	R7.5.1	R13.10.31	6年6か月	② 2,000	固定借賃	口座振込又は振替(12月末)	
5	川越市	■■■	■■■	790-2	畑	997.00	賃貸借	露地野菜	R7.5.1	R13.10.31	6年6か月	3,700	固定借賃	口座振込又は振替(12月末)	
6															
7															
8															
9															
10															
11															
12															
13															
14															
15															
16															
17															
18															
19															
20															
21															
22															
23															
24															

【権利の種類について】  
賃料なしの場合は「使用貸借」、賃料ありの場合は「賃貸借」と記入してください。

【契約の始期・終期について】  
契約の始期は毎月1日になります。始期の御記入については、書類を御提出いただく月（毎月平日の末日×）から4か月後の1日としてください。  
例：令和7年1月末までに御提出いただく場合  
→契約の始期は 令和7年5月1日  
  
契約の終期は、毎年6月14日又は10月31日のいずれかとしてください。

賃貸借の場合、賃料の支払いは金納のみです。米等による物納は取り扱っていません。  
賃料の記入方法は、以下の①・②を参考にしてください。  
①…賃貸借で、「1筆いくら」という契約にする場合は、その金額を「年額」欄に記入してください。また、「10aあたり」の金額も計算して記入してください。  
(上記①：980㎡の農地を5,000円で貸借する場合の計算)  
 $5,000円 \div 980㎡ \times 1,000㎡ \div 2 = 5,102円$   
②…賃貸借で、「複数の農地で合計いくら」という契約にする場合は、対象の農地の「10aあたり」の欄にすべて「固定借賃」と記入し、「年額」欄の合計が希望の合計金額になるよう各農地に割り振ってください。どの農地にいくら割り振るかについては、所有者の方と耕作者の方の話し合いでお決めください。  
各筆の面積で案分することが多いですが、それぞれの農地の使いやすさ等から、いずれかの農地に多く割り振っていただいても差し支えありません。  
上記3行目～5行目は、農地3筆で合計10,000円とする場合の例です。細かく1円単位で案分しても良いですし、上記のように100円単位で振り分け、端数は任意の筆に振り分けていただいても良いです。

賃貸借の場合、「支払方法（支払期限）」欄に「口座振込又は振替（12月末）」と記入してください。